

森林の将来を見据え、未来に残すために



▲市ホームページ

－「鹿屋市森林・林業振興計画」の策定－

本市は担い手の確保や育成、多面的機能を発揮した林業の成長産業化を目指すことなど、今後の林業の方向性を示す「鹿屋市森林・林業振興計画」を3月に策定しました。長期的な視点での計画策定のため、令和5年度から令和14年度までの10年を計画期間とし、5年ごとに必要に応じて見直しが行われます。

魅力ある林業の担い手を増やすために

－鹿屋市農業まつり－

令和4年11月、3年ぶりに行われた「鹿屋市農業まつり」では、鹿屋農業高校の生徒による林業技術の実演や林業機械の体験搭乗などを初めて実施。チェーンソーや伐採作業に用いる機械の操作など高い技術の披露により会場は盛り上がりを見せ、高校生と林業関係者との交流に加え、林業への興味・関心を集めました。



地域経済の発展のために

－林業・農業・漁業が連携－

大隅森林組合、鹿児島きもつき農業協同組合、鹿屋市漁業協同組合の3団体は「かのや農林漁業協同組合連絡協議会」として平成27年から活動しています。地域の中心産業が相互に連携し、ボランティア活動や農業体験を通じて地域を盛り上げています。

－おが粉製造施設の始動－

今年3月25日には、大隅森林組合のおが粉製造施設の竣工式が執り行われました。同施設は木を伐採する際に出る廃材や未利用材などをおが粉に加工する大型の施設。おが粉は家畜の足元に敷く敷材として利用され、今まで処理に苦勞していた廃材や未利用材の廃棄量削減に役立ちます。畜産が盛んな本市において、林業と畜産業とが連携した取り組みとして安定的な敷材の供給が期待されています。



▲上高隈町に竣工されたおが粉製造施設



▲おが粉は敷材の他にバイオマス燃料やキノコ栽培などにも利用が可能

林業の未来

林業に携わる人たちは「安全で豊かな森林を残したい」、「森林から生まれる資源を利用してほしい」などの想いを抱えています。そこには、将来の世代が必要とする地球環境や自然を損なわない「持続可能な社会」の実現に向けたヒントが数多く隠されています。

さらに国際的な木材価格の上昇や、大隅の主要な輸出拠点である志布志港において、大隅で生産された木材の取り引きが好調であることから、木材の経済的な価値も注目されている状況です。

林業という仕事は、大隅の価値ある森林を持続可能な資源として守るための重要な社会の機能であり、さらに経済的にも価値ある仕事であると言えるでしょう。私たちはこのような林業の大切さをしっかりと認識しながら、子どもたちに自然や木材と触れ合う機会を提供するなど、「森林の価値」を次代を担う子どもたちに伝えていく必要があります。

森の価値を
今こそ問い直す